



# つながり

「つながり」は、医療や介護に従事する皆様が、多職種に向けて自らの情報を発信し、互いに理解を深め、顔の見える関係を築くための連携ツールとして、季節の節目ごとに発行しております。

令和3(2021)年 6月23日 発行  
発行元  
秋田市在宅医療・介護連携センター  
TEL 018-827-3636  
E-mail renkei-center@acma.or.jp

## 職種別特集 (第4弾) 【医師】

松岡内科クリニック院長 / 秋田市医師会会長の松岡一志氏から、診療や多職種との連携に対する想いを伺いました



**松岡 一志 氏**

松岡内科クリニック 院長/秋田市医師会 会長  
趣味: 読書、ジム通い  
座右の銘: 泰然自若

## 「診察室以外の様子も 理解した上で」

～多職種からの情報が  
診療のプラスになっています

今回のインタビュアー

### 三浦 秀己 氏

光峰苑居宅介護支援センター センター長/秋田県  
中央地区介護支援専門員協会 副会長  
趣味: サウナ(とどのう快感を目指しています)  
座右の銘: 笑う門には福来たる



在宅医療・介護連携の要となる医師。医師ともっとコミュニケーションをとりたいという想いを携え、ケアマネジャーの三浦秀己氏が松岡内科クリニック院長/秋田市医師会会長の松岡一志氏からお話を伺いました。

### 耳を傾け一緒に考えられる診療を

**三浦氏** 新型コロナのワクチン接種が始まっています。そのようなお忙しい中ありがとうございます。(※この記事は5月12日に取材したものです)

**松岡氏** 私の診療所に来た患者さんは予約が取りにくいと話をしていました。医師会としてもバックアップはしていますが、なかなか大変な状況です。

**三浦氏** ケアマネとしても高齢者への接種がスムーズに進むよう、後方支援を心がけていきたいと思います。今日はどうぞよろしくお願いします。早速ですが、松岡先生の開業医としての仕事内容を教えてください。

**松岡氏** 私個人の話をしますと、私は大学病院での勤務を経て平成11年に中通の現在地に診療所を開業しました。診療所に来る患者さんは高血圧症や高脂血症など生活習慣病と言われる方が多いので、検査をしながら処方薬を調整する他に、体重を落とすよう運動を勧めたり塩分制限の助言をするなどして生活習慣を見直すような働きかけもしています。また、中には体調が良くなったからと言って薬を中断する方もいますが、例えば高血圧症の方であれば服薬で一時的に血圧が下がっていても中断すればまた上がりますので、そのようなことを理解してもら

ため、しっかりと説明をする事にも力を入れています。

**三浦氏** ありがとうございます。松岡先生が診療で大切にしていることを伺っても良いですか。

**松岡氏** 患者さんの話を聞くよう心がけていることでしょうか。私は循環器内科が専門ですが、話を聞く時は専門分野だけにこだわらず、患者さんの症状、特に内科に関する部分は全て聞くようにしています。その上で診療所ができる治療は診療所で、できないと判断した治療は病院を紹介して対応を依頼しています。ただ、高齢になると何でもかんでも病院を紹介すれば良いわけではないですね。検査や治療での入院が筋力低下や認知症発症の引き金になることも考えられますから。そのようなことも患者さんや家族に正直に伝え、一緒に決めていくようにしています。

**三浦氏** 医師に話を聞いてもらえ、一緒に考えられる。それは患者さんや家族にとって嬉しい事ですね。

**松岡氏** かつて大学病院で勤務していた時は、ゆっくり話を聞く事ができませんでした。予約制のため患者さんが何人来るか先に分かるのですが、患者数が多いととにかく時間内にこの人数を診なければという思いで、ゆとりがなく周囲に気が回らなかったと思います。

**三浦氏** 松岡先生は外来診療の他に訪問診療も行っているのでしょうか。

**松岡氏** 長年通院していた方が通えなくなり、訪問診療に切り替える事もありましたが、数としては多くありません。まずはできる限り外来診療に来てもらっています。先ほども安易に入院を勧めないというような話をしましたが、高齢者へはできる限り今の生活を継続させてあげる事が大切だと思っています。

**三浦氏** 生活を継続させるという部分、よく分かります。

**松岡氏** また訪問診療を行うためにはそれなりの時間確保が必要ですし、訪問可能な距離が制度上決められています。私の診療所は広い圏域から患者さんが来ているので特に難しさを感じています。患者さんが希望すれば、訪問診療を積極的に行っている他の医師に紹介することもできますので、そこは話し合いですね。

### 診察室以外の事を知る大切さ

**三浦氏** 松岡先生は患者さんの事でケアマネなど関係職種とやり取りすることはありますか。

**松岡氏** 私の場合は、薬局の薬剤師とは具体的な処方薬のことで連絡を取り合っていますが、それ以外の職種とは少ないですね。ケアマネに関しては、私の所に

来るのは何か問題が発生した時という印象です。患者さんや家族とはよく関係が取れているようですが。

**三浦氏** それはケアマネとして反省すべき点かもしれません。

**松岡氏** もちろん熱心でこちらが感心するようなケアマネもいますよ。他の職種では、外来に付き添いで来たヘルパーと話をすることがあり、私の知らない患者さんの日常を教えてもらい「へえー」なんて思うことがあります。診察室以外での様子も理解した上で患者さんを診ていないと時々とんでもない誤解をすることがあるので、このような情報提供には大変助かっています。

**三浦氏** 医師に情報提供したいと考えている関係職種はたくさんいますが、まだ声をかけるハードルを高く感じているというのが現状です。医師から関係職種に求めてもらえる動きやすいのですが。

### コミュニケーションを 苦手とする医師もたくさん

**松岡氏** 在宅医療を積極的に行っている医師であれば、普段から多職種と上手く連携を取り話をしているのかもしれませんが。しかし実際は、どのようなことを誰

に声をかけて良いか分からない、という医師が多いのではないのでしょうか。特に私ぐらいの年代ですと多職種とコミュニケーションを取ることを学んでこなかった医師が多いでしょうから、自分から声をかけるのは苦手かもしれませんね。そのような部分が取っつきにくいと思われる所以なのでしょうね。医師ってやっぱり一匹狼みたいなのところがありますからね。

**三浦氏** えっと…、はいと言って良いのでしょうか。

**松岡氏** けれどもある意味大事なことでもあるのです。私は医師として、病気に関しては最後は自分で決めなければいけないという心づもりで患者さんに関わっています。もちろん患者さんにとって必要な情報は聞きますが、肝心なところは自分が、と。医師の多くがそのように育ってきていますから、下手をすると周りから理解されにくいのかもかもしれませんね。本当は私たちの知らない情報をもらえると助かるのですよ。

**三浦氏** そのようなお話を伺って良かったです。患者さんの日常を伝えるだけでなく、こんな事もできますよと具体的に提案していく事も必要そうです。どのようにすれば上手く情報をお渡しできるでしょうか。

**松岡氏** メールやファックスなど、医師によってやりやすい方法はそれぞれだと思いますが、私は直接会って話ができる色々な意味で良いと感じます。

**三浦氏** それを聞くと嬉しいです。関係職種が持っている情報を医師と共有できれば、患者さんの診療に大いに役立つと思います。私たちもハードルが高いなどと言わず、自分から積極的に声をかけていかなければいけませんね。時間を合わせるのが難しいかもしれませんが、機会を作っていきたいと思います。ところで…松岡先生はお休みの日は何をされていますか。

**松岡氏** 感染予防のためしばらく行っていませんが、以前は週に2回程ジムに行っていました。

**三浦氏** ジムですか!?

**松岡氏** 開業医は身体が資本ですから。私ぐらいやそれ以上の年齢の人が相当数来ていますよ。身体を動かすことは良いですね。

**三浦氏** 松岡先生の努力を見習って私も行きたくくなりました。今日はお忙しい中ありがとうございました。このように情報交換できる機会があれば連携も深まっていくと思います。今後ともよろしくお願いします。

**松岡氏** ありがとうございました。



感染対策を講じた上でインタビューを実施しました

### インタビューの感想

最初は緊張しましたが、気を使っただき穏やかに話が出来ました。松岡先生はテニスプレイヤーだそうですね！

国全体で医療・介護の連携に取り組んでいますが、目先のことだけにとらわれず、医療の本来の意味を忘れないようにと思っています。

## お知らせ

#### 《秋田市から》

- ・入院支援ルール
- ・入院時情報提供シート
- ・退院時情報共有シート

を作成しました。ご活用下さい。

秋田市役所 長寿福祉課  
地域包括ケア担当  
☎ 018-888-5668

#### 《連携センターから》

8/22 に多職種連携研修会「医療・介護関係者のためのACP(人生会議)研修」を実施します。

7/20申込締め切り。  
連携センター  
☎ 018-827-3636

様式等は連携センターのホームページにも掲載しています！

申込用紙はホームページ「研修情報」からダウンロードできます。

## 連携センターが新体制に

4月より新しく看護師が加わり、相談員が3名になりました。今後は医療面からの視点も加えながら、在宅医療・介護連携の推進に力を入れてまいります。

4月より連携センターで勤務しております高橋です。県内の病院、高齢者施設で看護師として働いておりました。医療と介護の「橋渡し役」として、関係者、市民の方のお役に立てるよう、早く慣れていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



渡邊 高橋 熊谷

## 秋田市在宅医療・介護連携センター

〈受付時間〉月～金(祝祭日を除く)午前9時～午後5時  
〒010-0976 秋田市八橋南一丁目8番5号(秋田市医師会館内)  
TEL:018-827-3636 FAX:018-827-3614  
E-mail renkei-center@acma.or.jp



## 編集後記

先生は取材中の1時間程の間にも数本の転送電話を携帯で受け、対応をされました。お忙しいですが、いつか先生とテニスでミックスダブルスを組みたいです。熊谷

